

# 指導資料

 鹿児島県総合教育センター

## 音楽 第47号

- 小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校対象 -  
平成27年4月発行

### 楽曲の魅力を感じさせ、表現に生かす指導の工夫

音楽科, 芸術(音楽)においては, 児童生徒に音楽のよさや楽しさを実感させるとともに, 思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することを重視している。そのためには, 児童生徒が自分なりの感じ方や考え方を大事にしながら, 表現を工夫したり, 表現したものを友達と認め合ったり, 批評し合ったりする活動を主体的に進め, その過程で成就感や達成感を得られるような授業の展開が求められる。

そこで, 本稿では, 表現の学習における授業展開例を示し, 基本的な指導過程の工夫について述べる。

#### 1 表現領域の学習

表現領域の学習は, 次の三つの側面を捉えることが大切である。

歌詞の内容や曲想, 楽器の特徴, 言葉や音階の特徴などを捉えイメージをもって曲にふさわしい表現や構成を工夫すること

表現をするために必要な技能を身に付けること

音楽の背景となる文化などに目を向けること

また, 次の五つの観点による指導内容を

具体化する必要がある。

音楽の素材としての音

音楽の構造

音楽によって喚起されるイメージや感情

音楽の表現における技能

音楽の背景となる風土や文化・歴史 など

音楽は, 音色, リズム, 旋律, 和声を含む音と音との関わり合い, 形式などの構成要素と, 速度, 強弱などの表現要素による構造的側面, そして, 雰囲気, 曲想, 美しさ, 豊かさといった, 音楽固有の感性的側面が互いに関わり合って成立している。教師には, これらを児童生徒に理解させるとともに, 表現活動における指導に積極的に取り入れ, 生かしていくことが求められる。

#### 2 表現活動における指導の工夫

児童生徒に楽曲の魅力を感じさせ, 表現を工夫させるためには, 教師は, どんな楽曲を使ってどのような過程を踏まえて授業を進めていくのか, どのような方法・形態で教えるのかなどを工夫する必要がある。

## 【導入の段階】

### [ 楽曲と出会い，学習への意欲をもつ活動 ]

児童生徒と楽曲との関わりを大切にし，学習への意欲や表現への思いをもつことができるような活動場面の設定

#### 楽曲との出合わせ方

- ・ 楽曲の楽しさやよさを直感的に感じ取ることができ、「こんな声（音）で表現したい。」という思いを膨らませることができる範唱や範奏を選曲し，鑑賞させる。
- ・ 範唱や範奏を聴かせるときには，ワークシートや音楽ノート等を活用し，「自分の好きなところ」，「楽しいと感じるところ」，「美しいと感じるところ」など，楽曲の魅力について十分考えさせ，記録させる。

児童生徒が楽曲を聴いて，感じ取ったものを基にした授業の構成

導入は，本時の学習活動を進めていくために，児童生徒の関心・意欲を喚起させ，学習の動機付けを図るとともに，学習活動の方向付けを行う段階である。そのために，児童生徒の興味・関心を生かした学習のめあて（目標）を設定し，一人一人に問題意識を確実にもたせる必要がある。

また，授業を進める上で特に大切にしたいのは，楽曲との出合わせ方である。まず，教師は，選曲に当たって，使用する楽曲が児童生徒の発達の段階に適しているか，芸術的価値や文化的価値はどうか，指導目標の達成に適した教材であるかなど，楽曲の音楽的な分析をし

なくてはならない。そして，範唱や範奏を児童生徒に聴かせるときには，その聴かせ方を工夫する必要がある。なぜなら，範唱や範奏の中には，表現のヒントが多く含まれているからである。学習する楽曲には，どのような曲の特徴があるのか，歌手（演奏者）は，どのように歌っている（演奏している）のか，どんなことに気を付けて表現しているのかといったことを考えながら，注意深く聴くという活動を大切にしたい。そうすることにより，児童生徒は，「あのようなきれいな音色で歌える（演奏できる）ようになりたいな。」，「この曲はいいな。こんな感じで歌いたい（演奏したい）な。」といったあこがれをもち，意欲をもって授業に取り組むようになる。

## 【展開の段階】

### [ 互いの表現のよさに気付き練り合う活動 ]

児童生徒の思いを具体化（ワークシートや楽譜への書き込み等）し，自己表現に向けて互いに練習し，練り合う活動

互いに学び合う中で，言葉によるコミュニケーションを通して，考えや思いを共有し，表現を高め合う活動

相互に発表し合ったり，鑑賞し合ったりして思いを分かち合う活動

展開は，楽曲を練習することなどを通して，知識・技能を獲得させたり，思考力，判断力，表現力等を高めたりする段階である。

本来音楽活動は，音によるコミュニケーションを基盤としたものである。しかし，表現の活動においても，音楽に対する自

己のイメージや思いなどを、他者と伝え合ったり、他者がどのようなことを意図しているのかをよく考えて、それに共感したりするためには、言葉によるコミュニケーションが必要となる。音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し、他者に伝えることが音楽科における批評である。互いに批評し合う活動を通して言語活動の充実を図るとともに、表現を工夫したり、技能を高め合ったりする活動を活性化させたい。

また、音楽活動は、学習のねらいに応じて個人・グループ・全体の様々な形態の学習活動が展開できる。特にグループ活動においては、互いのグループを意識しながら切磋琢磨し、それぞれのグループで助け合い工夫し合いながら、自分たちの表現を創り上げることが期待できる。

**【終末の段階】**

<p>[ 学習を振り返る活動 ]</p> <p>本時の学習を振り返り、自分や友達の表現の高まりを認め合い、楽曲のよさや美しさを深く味わう場の設定</p> <p>学習カード等を活用し、自己の振り返りをするとともに、次時の学習への意欲付けをする場の設定</p>
--

終末は、追究活動により得られた学習成果を比較させたり、新しい課題に適用させたりして、学習内容の定着を図る段階である。

ここで行う評価は、本時の学習を振り返ると同時に、次時の学習の改善につながる問題提起でもある。その評価を生かして、新たな、より望ましい、より適切な

具体目標、行動目標の設定へとつなげていくことが求められる。

教師は、児童生徒の表現の技能向上を目指し、指導していかなくてはならない。しかし、評価するときには、技能面を大切にしながらも、「意欲が高まったからこそ表現がうまくできた。」等、より情意面を強調して児童生徒を励まし、伸ばしていくことが大切である。

**3 表現指導の構想例**

表1は、題材「曲の構成と音の重なり方を理解して表現を工夫しよう」の構想例である。[ 対象：中学校第2学年 教材：田崎はるか作詞、橋本祥路作曲 混声三部合唱「心の中にきらめいて」 ]

表1 題材の主な学習活動例(全3時間)

第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 範唱を聴き、楽曲の雰囲気や流れを把握する。また、自分なりに楽曲分析する。</li> <li>・ パートに分かれて音取りをする。また、自分のパートの音程やリズムを正確に把握し、自信をもって歌えるようになる。</li> <li>・ 全体で合わせて、混声三部合唱をする。</li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1時で個人で分析した楽曲分析を基に、グループごとに意見交換を行い、自分たちの表現の工夫を考える。</li> <li>・ グループで考えた表現の工夫（旋律の表情の変化、強弱や速度の変化、言葉を生かした表現、音の重なり・ハーモニー等）が、実際に表現できるように、練習する。</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに、第2時で取り組んだ表現の工夫を確認し、発表に向けてそれぞれ練習する。</li> <li>・ グループごとに発表する。鑑賞者はグループの合唱を聴いて、聴き取れた表現の工夫を発表する。また、合唱したグループが考えた工夫と比較し、意見交換する。</li> </ul>

表2は、学習活動例第3時の授業展開例である。

表2 授業展開例(3/3)(ゴシックは指導の工夫に関連する部分)

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点
導 入	7分	1 「心の中にきらめいて」を、全員で合唱する。 ・ 正しい姿勢、無理のない発声で、伸び伸びと歌う。 ・ 合唱終了後自分たちの合唱を自己評価しよかった点や注意したいことを発表する。 <b>【導入の段階 ・ 】</b> 合唱終了後の生徒たちの自己評価と前時の振り返りを基に、本時の目標を設定し、学習への意欲を高める。	一斉	全員で「心の中にきらめいて」を合唱させる。 ・ 演奏前の緊張をほぐすような声掛けをしながら、伸び伸びと楽しく合唱できるような雰囲気づくりを行う。 ・ 姿勢、口形等について助言し、リラックスして合唱させる。 ・ 生徒たちに自己評価をさせ、発表を基に、本時の活動をイメージさせる。 ・ 前時までの学習の流れを振り返らせながら、本時の目標を生徒たちに考えさせ、生徒から意見を引き出し、本時の目標を設定する。
	5分	2 本時の目標を確認し、本時の流れについて説明を聞く。 <b>グループごとに合唱を練り上げ、発表を通して意見交換し、互いに批評し合うことによって、自分たちの表現力を高めよう。</b>	一斉	本時の目標を確認し、本時の流れを説明する。 ・ グループの課題(表現の工夫)解決の手順や方法を十分理解させ、意欲的な活動が展開されるように助言する。 ・ 曲想や歌詞に込められた思いを感じ取り、楽曲分析を生かした表現を工夫するように指示し、グループ活動への意識を高める。
展 開	8分	3 グループごとに「表現の工夫」を確認し、発表に向けて最終練習をする。 ・ どんな合唱をするのか。 ・ 声量は十分か。 ・ パートのバランスはよいか。	グループ	各グループを回り、発表前の状況を確認する。 ・ 各グループの「表現の工夫」を確認し、現状を把握する。 ・ 発表に向けての励ましや表現がうまくできていない部分については、アドバイスしながら、実技指導する。
	20分	4 グループごとに合唱し、相互評価する。 <b>【展開の段階】</b> 鑑賞者には、配布した楽譜にグループ合唱から聴き取れた「表現の工夫」を書き込ませる。鑑賞者に発表させた後、発表したグループの代表者に工夫したことを発表させ、互いの意見を比較させる。	グループ	合唱する楽曲の楽譜(強弱記号等を消したものを)配布する。 <b>【予想される表現の工夫】</b> ・ リズムが細かい部分については、発音が明確になるように言葉をはっきり歌うようにする。 ・ 主旋律を生かした表現をするために、副旋律パートは音量に気を付け、ハーモニーを意識して歌う。 ・ 曲の最後が盛り上がり終わるために、音符の長さを意識し、ritを生かした表現をする。
終 末	5分	5 最後に全員で、「心の中にきらめいて」を合唱する。	一斉	本時の学習の成果が発揮できるように、グループ活動で出された「表現の工夫」を取り入れながら、全体的なアドバイスをし、伸び伸びと合唱させる。 ・ 生徒たちが表現しやすいように、早めの指示を意識した声掛けや指揮を工夫する。
	5分	6 本時のまとめをする。 ・ 評価カードに自己評価と感想を書く。 ・ 次時の学習の流れを知る。	個人 一斉	本時のまとめをさせ、数人に感想を発表させる。 ・ 評価カードに自己評価をさせ、本時の活動で新たに気付いたことを中心に、感想を書かせる。 ・ 次時は、新しい楽曲を学習することを知らせる。

児童生徒に、友達や教師と共に学び合い活動する中で、合唱や合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、楽曲の魅力を感じさせながら表現を工夫し、音楽活動によって生まれる喜びや楽しさを実感させる授業を展開していただきたい。

参考文献

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』平成20年、教育芸術社  
文部科学省『中学校学習指導要領解説音楽編』平成20年、教育芸術社  
文部科学省『高等学校学習指導要領芸術編(音楽)』平成20年、教育芸術社

(教職研修課)